



# 松林小だより

令和5年1月10日  
学校便り No.11  
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800

## 「倉」る」

校長 鳥居 夕子

明けまして、おめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

年末から日本列島に寒波が襲い、東北・北陸地方では停電が続くなどの被害に見舞われました。厳しい寒さの中、暖房が使えず多くの人々が大変な思いをされたことと思います。こうしたニュースに触れるたび、いつ、だれが、どんな状況になるか、未来は不確定。そして人間の力は自然の力には到底かなわないことを思い知らされます。「備えあれば憂いなし」東京では晴天が続いていますが、今一度、気を引き締めたいものです。



さて、松林小学校では来年度の準備が

始まっています。これまでもお伝えしている通り、来年度から、羽村市内の学校はすべて3学期制となります。

平成16年、羽村市内の学校は、授業時数を無理なく確保することができるなどの理由により現在の2学期制となりました。それから20年近くを経て、学校を取り巻く状況も大きく変化しました。20年の間には、「土曜日授業」の実施や長期休業期間の弾力的な運用も可能になり、平成30年度からは、市内の中学校が3学期制になっています。そして、来年度からは小学校でも3学期制となります。

現行の学習指導要領では、子供たちの「学びに向かう力、人間性等の涵養」を実現することが新たに示されています。「学びに向かう力」とは、子供自身が自らに必要な学びに向かって、何をどうやって学ぶかなどを考え、調整できるようになる力です。この力を身に付けるためには、日々の教育活動の中で、私たち大人が子供たちの学びを適宜評価してあげることが重要です。子供たちが学びに向かっている姿を評価し、アドバイスすることで、子供自身が、自分の学びのスタイルを身に付けていくことになります。これまで、前期と後期の終わりにお渡ししている「あゆみ」は長いスパンで子供たちの学びの成果をお伝えするものです。3学期制に変わることにより、「あゆみ」はこれまでよりも短いスパンで子供たちの学習

の様子をお伝えすることになります。併せて、教師は単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通した評価の工夫をし、子供たちの習熟の様子や変化をつかみます。そして、「何ができるようになったのか」「どうすればできるようになるのか」を子供たちに、その都度フィードバックします。子供たちは、こうした教師との細かな振り返りにより、「何を学んだか」「何がわからないのか」「どうすれば身に付くのか」を理解し、自分に必要な学びに生かしていくことになります。

本校では、来年度からの3学期制は、単に学期の区切りが変えるということに留まらず、これまで行ってきた教育活動の目的やその内容等を見直していきます。これまで2学期制で行ってきた教育活動が良くなかったということではありません。時代の変化に伴って、社会が必要としている人材は変化し、子供たちが直面している課題も複雑になっています。今年度から新しい教育目標に掲げた「自律から協調」を全ての教育活動の最上位目標として、新しい学校創りを子供たちや保護者、地域、そして子供たちを支えてくださる多くの方々と共に考えていきたいです。

今、まさに準備中ですので、新しい学校創りへの皆様のご意見やご提案をいただければ幸いです。兔年の一年が、皆様と松林小学校にとって飛躍の年になることを祈念し、今年最初のご挨拶とさせていただきます。